

4-2-2 スリランカ洪水対策促進プロジェクト

1) 趣旨

2003年5月17日から18日にかけてスリランカ中西部を襲ったモンスーン性の豪雨は、大規模な地滑りを引き起こし、死者252人、被災者約60万人（15万世帯以上）という同国建国以来の被害を発生させた。地滑り被害は、マタラ地区およびラトナプラ地区に集中しており、多くの家屋が被災した。

アジア防災センターは、スリランカ国立防災センターの依頼を受けて、同国の気象災害低減のための防災システム構築について現地調査を実施した。

2) 実施期間

2003年8月4日～9日

3) 調査団構成

(氏名 ・ 所属)	:	(調査分野)
吉村 文章 (アジア防災センター 主任研究員)	:	防災行政
栗田 哲史 (アジア防災センター 主任研究員)	:	防災システム
スリガウリ サンカル (アジア防災センター 客員研究員)	:	二国間協力
水上 裕章 (日本気象協会 技師)	:	気象システム



図4-2-2-1 社会福祉大臣（中央）とのミーティング

4) 調査内容

表 4-2-2-1 現地調査内容

月 日	調 査 箇 所	内 容
8月4日	コロンボ着	—
8月5日	国立防災センター	下記の報告を受ける。 ・ スリランカの自然災害 ・ 5月の洪水被害に関する説明 ・ スリランカの防災システム
	気象局	気象システムの現状調査
	国際協力銀行	スリランカの現状について情報収集
	国際協力事業団	
日本大使館		
8月6日	社会福祉省	大臣および次官への表敬訪問
	スリランカ電話会社	公衆通信（電話、携帯電話）網の調査
	灌漑省	洪水対策の調査
	地理局	地図データの整備状況の調査
	国立建築研究所	土砂災害ハザードマップの調査
	気象局	今後のシステム構築に関する意見交換
8月7日	国立建築研究所	土砂災害調査のヒヤリング
	日本大使館	調査結果の報告
	国際協力銀行	
8月8日	ラトナプラ地区	土砂災害発生箇所の現地調査
8月9日	コロンボ発	—

5) 調査結果

(1) ラトナプラ地区の土砂被害

5月に発生した土砂災害で最も被害が集中したラトナプラ地区の地滑り発生現場を訪問し、地区行政官から被災状況などの説明を受けた。家屋の被災者のうち、全壊家屋の場合 100,000 ルピーと土地を政府から提供されて新たな家を新築し、半壊家屋の場合 40,000 ルピーを提供され家を補修する。ただし、半壊家屋が危険地域にあった場合は全壊家屋と同じ扱いとする。これにより、住民の負担無しで同程度の家の復旧が可能となる。復旧作業は 10 月までに終了させる予定。

今回の土砂災害地域周辺の未だに危険な箇所（政府が危険箇所を特定）では、強制的に住民の移転が既に行われていた。避難民は移転先の住宅完成までの間、一時的に、避難キャンプに避難している。



残った家屋

図 4-2-2-2 地すべり発生地

(この地域一帯は危険地域に指定されたため、残った家屋の住人は既に移転)



最高水位の痕跡

図 4-2-2-3 洪水の最高水位が残っている家屋

(2) 防災システムの構築

スリランカ防災関係機関への調査の結果から、単に雨量計、気象レーダーなどの観測機器等の整備を行うだけでは気象災害の減少には結びつかず、それらの機器を運用する人材育成の必要性および財政面を含む持続可能な体制作りの必要性が判明した。

スリランカの防災担当者にはこの旨を説明し、以下の項目を含む総合的な防災システムの構築の必要性を提言した。

- ・雨量・地滑りなどの観測および予測システム
- ・防災担当者への訓練プログラム
- ・コミュニティに基づくハザードマップ、避難計画の作成